

里地里山のあるニュータウンを自然共生を考える住環境モデルに						
18. 谷田・武西の谷津【千葉県白井市・印西市】						
範	囲	印西市と白井市にまたがり、千葉ニュータウンに隣接する地域				
所	在	地	千葉県白井市・印西市			
生	物	地	理	区	分	コナラ林(東日本)
環	境	要	素	二次林(◎)、草地、水田、畑、小川・水路、ため池、池沼・湿地、社寺林、人工林、その他(湧水)		
自然条件	地	形	丘陵や谷津の里山や印旛沼、手賀沼および利根川など、緑と水に囲まれている。			
	植	生・生物等	白井市谷田・印西市武西地区は、関東随一の草原が広がっており、草原性の希少種が多い。また、5本の水源谷津と6箇所の湧水が質・量ともに健全な形で存在し、谷田地区には約44ha、武西地区には約23haの水源涵養林がある。			
						
			撮影時期：H20 年 6 月 印西市武西地区：草原の風景		撮影時期：H18 年 6 月 白井市谷田地区：湧水により形成された小川	
社会条件	人口(市町村)	60,353人(農家率3.1%、主業農家が多い) ※白井市のデータ(H22年)				
	土 地 利 用	市総面積の31.3%が田畑、14.9%が山林である。 ※白井市のデータ(H22年)				
	歴 史・文 化	本地区の谷田先神の谷津の西には、清戸宗像神社(印西内郷の総鎮守・貞観18年創建)が、戸神の谷津の南には戸神宗像神社(戸神・武西両地区の産土神社)が鎮座している。これらの神社は、かつて印旛沼が香取の海と呼ばれる内海であったころ、西日本から船でこの地に移り住んだ人々の歴史を今に伝え、地域の守り神として今も深い信仰の対象となっている。また、谷田の湧水に水神など文化遺産も豊富である。				
法指定、行政による評価の状況	自然環境・景観保全や国土保全に関わる地域指定等	該当なし				
	すぐれた自然、景観、伝統文化などとしての選定	武西地区：六座念仏の称念仏踊り(1千葉県指定の無形文化財) 本地区の戸神地区に近接して、「にほんの里100選」に選ばれた結縁寺の里山等、多くの良好な緑地が存在している。				

谷田・武西の谷津					
取組主体	タイプ	連携組織:多様な主体の連携組織による取組			
	主 な 主 体	名 称	概 要		
		北総里山クラブ	里山を守り自然と生きものと人間が織り成す 21 世紀型のまちづくりを目指す市民団体の集まり		
経 緯		北総里山クラブは、市民主体で“里山に囲まれたまち”、すなわち“持続的な自然と快適な住環境を併せ持つ持続可能なまち”を実現するため、この目標を共有する市民団体がネットワークを組み、連携を深めるために結成された団体である。当地区を北総地域の自然との共生を考えるモデル地区として位置づけ、北総地域のあるべき姿とそのための保全と活用の手法を取りまとめ、その具体化を図っていくことを提案している。2008 年には、地区の保全と活用を目指す「北総里山会議」が発足した。			
支 援 措 置		該当なし			
取組の目的・目標		北総台地に広がる里山を守り、自然と生きものと人間が織り成す 21 世紀型のまちを作る			
取組分野・内容	農林業を通じた里山や草地の利用（管理）の維持・活性化	該当なし			
	バイオマスなど新たな資源としての利用	[対象となる資源] 該当なし			
	環境教育や自然体験、エコツアーリズムの場としての利用	自 然 観 察 会	野鳥観察会、植物観察会、生き物観察会		
		環 境 教 育 ・ 学 習 活 動	水質調査、植生調査、生き物調査、フィールド探検		
		里地里山体験・環境保全	ごみ拾い、ごみ調査、柵づくり、立ち入り禁止看板作成		
		農 林 業 体 験 活 動			
		エ コ ツ ア ー			
		そ の 他			
	野生動植物やその生息地の保全・管理	該当なし			
	地域の良好な景観の保全・修復	平成 21 年 2 月に「北総里山会議」において、当地区の保全・活用の今後の方向性を示す報告書が取りまとめられた。			
	里地里山の伝統的な生活文化の知恵や技術の継承	対 象	生 活 行 事	本地区の 6 箇所の湧水 1 つ、谷田の湧水には江戸期の水神が祭られている。また、戸神湧水の北には江戸期の百庚申塚がある。これらの文化遺産は、歴史的にも大変貴重である。 [文化財指定] あり	
			資源利用技術		
			そ の 他		
連 携 ・ 協 働		①「北総里山会議」(有識者・NPO・企業・千葉県・白井市・印西市の委員で構成、H20.10 設置) モデル地区である谷田・武西の谷津における里山保全に関する会議。当地域の里山保全・活用のためのランドデザインを作成することを目的とする。平成 21 年 2 月に当地区の保全・活用の今後の方向性を示す報告書を取りまとめ市等へ提言。今後、整備・保全活動の具体化に向け、地元住民等を含む協議会への移行を検討している。 ②「北総里山クラブ」(当地域で里山保全の活動を行なうNPO16 団体の連合体。)北総里山会議の事務局を担当。 ③「谷田・武西の原っぱと森の会」(H21.10 月設置) 本地区の具体的な保全活動を行う団体。会員約 70 名			

谷田・武西の谷津	
撮影時期:	撮影時期:
景観としての 利用・評価	人と自然との共生を図るランドデザインの作成
取組の特徴	<u>都市近郊という立地条件を生かした多様な主体の連携によって、都市と農村の調和ある発展が図られている。</u> ニュータウンの玄関口に位置しながら、草原（江戸時代の印西牧の一部）や湧水を含み、豊かな景観と動植物生息環境を有する場所。当地区が有する里山や田園、特に草原景観が卓越する風景は、自然と共生する近代都市・千葉ニュータウンとして、その個性と品格を象徴する景観と緑地を形成している。 この一帯を、北総地域の自然との共生を考えるモデル地区と位置づけ、北総里山クラブが推進団体となり、行政任せではなく、ニュータウン等の地域住民をはじめ、県民・NPO、企業、行政等多様な主体が連携・協働して参画し、地域の将来像を共有し、具体化を図っていく取組を進めている。

【参照資料】

北総里山クラブ HP (<http://hokusousatoyama.web.fc2.com/index.html>)